

「東京バナナ」

湯田
美帆

登場人物

秋元公太 (11) (26) 小学5年生

大野 将 (11) (26) 小学5年生

秋元 誠 (42) 公太の父・サラリーマン

秋元恵子 (41) 公太の母

大野譲二 (43) 将の父・自営業

大野広美 (41) 将の母

田村キヨ子 (70) 駄菓子屋の店主

吉井大輔 (32) お笑い芸人

佐藤時雄 (50) トラック運転手

藤崎章一 (36) 公太の担任

皆川淳 (11) 公太のクラスメイト

佐伯智也 (11) 公太のクラスメイト

小学生 1

小学生 2

小学生 3

小学生 4

ガラの悪いおじさん

借金取り

○太陽の塔（夕）

夕日に照らされた太陽の塔。
塔の前の芝生に一人で体育座りをして
いる少年の後ろ姿。

○西原小学校・前（夕）

『西原小学校』と書かれた校門前。

○同・教室・中（夕）

机と椅子の並ぶ教室。
バラバラと教室を出ていく生徒達。

窓際の席に座り帰りの準備をしている

秋元公太（11）。

ランドセルを背負った小学生1、2が

大野将（11）を呼んでいる。

小学生1「サッカーいこや！」

小学生2「将！ はよいくで！」

バタバタと教室を出ていく将。

教室に一人残される公太。

おもむろに机の中から『ネタ帳』と書かれた大学ノートを取り出す公太。

○同・廊下（夕）

数人の小学生と廊下を歩いている将。

将「あ、アカン！ 忘れもんしたわ」

小学生1「先いってんで」

急いで教室に引き返す将。

○同・教室・中（夕）

ノートに何かを書いている公太。

教室に入ってくる将。

将に気づかず書き続けている公太。

後ろから静かに近づきノートを覗き込

む将。

将「（ノートを読みながら）・・・黄色いも

んって大体うまい」

公太「つつ！」

びっくりして将の方を見る公太。

慌ててノートを隠す公太。

将「え、なに？ めっちゃ隠すやん！」

公太「（小声で）見んなや」

途端に喘息が出て大きくせき込む公太。

驚いた顔で公太を見ている将。

ポケットから吸引器を取り出し吸い始める公太。

将「え、じぶん喋り声小さいくせに、咳めっ

ちやでかない？」

吸引器を口から外し、

公太「（大声で）そこ？」

将「声もデカなった！」

ブツと笑い出す将と公太。

○公園（夕）

ランドセルを脇に置き、ブランコに座っている公太と将。

公太のノートを熱心に読んでいる将。

公太「なあ、サッカーええの？」

将「ええねん、暇つぶしや」

公太「そろそろ返してくれへん？」

将「なあ、コンビ組まへん？」

公太「え、何の話？」

公太にノートを返ししながら、

将「（真顔で）おもしろかったで」

公太「真顔で何言うてんの」

勢いよくブランコをこぎ始める将。

将「俺な、日本中の人の腹筋崩壊させるのが

夢やねん」

公太「それ、日本終わるな」

将「お笑い界のゴジラ言うてくれ！」

公太「よう大声で言えるな、そんなはずいこ

と」

将「ほんで、じぶんがモスラや」

公太「嫌やわ、蛾」

将「ほなら、ここから靴飛ばして俺が勝った

らコンビ組もうや、負けたらサッカー選手

なるわ」

公太「めちやくちややん！」

将「いくで！」

公太「ちよっ」

立ち上がり思い切りブランコをこいで
靴を飛ばす将。

弧を描いて遠くへ落下する靴。

○道（夕）

ランドセルを背負い、線路脇の道を歩
いている公太と将。

錆びたフェンスを枝でなぞりながら歩
いている将。

将「サッカーなめんなよ、大事やねん脚力」

公太「やっぱ、サッカー選手の方がええんち
やう？」

将「後ろに靴飛ばしといて、往生際悪いぞ」

立ち止まり将の背中に向かって、

公太「なあ、ほんまに僕でいいん？ モスラ」

ニコツと笑い振り向く将。

将「何度も言わせんなや」

公太に近づき肩に手を回しながら歩き

出す将。

将「ええか、まずは筋トレや」

公太「運動あかんで、僕」

将「ちやうやん、お笑いの筋トレ言うたら喋ることや」

公太「え、そうなん？」

将「放課後だべろうや」

並んできこちなく並んで歩いていく将

と公太。

○西原小学校・教室・中（朝）

窓際の席に座り外を眺めている公太。

口に絆創膏を付けた将が教室に入ってくる。

将「おはようさんさん、おはようさん！」

小学生1「将、なんでサッカー来いひんかつ

てん？」

小学生2「将おらんとつまらんやん」

将「おう、おはよう公太！」

公太「お、おう」

小学生1「え、お前ら仲良かったっけ？」

将「俺らコンビ組んでん、な？」

気まずそうに頷く公太。

○駄菓子屋「たなべ」・外（夕）

「たなべ」と書かれた古い看板。

店前のベンチに座り、たこ焼きを食べ
ている公太と将。

傍らにはランドセルが置かれている。

将「なあ知ってた？ 東京の人ってアホ言わ
れたらめっちゃめっちゃ怒るらしいで」

公太「ほんま？ アホってほめ言葉やんな？」
将「せやねん、大阪からしたら外国みたいな
もんやで、東京は」

公太「怖いわ、東京」
たこ焼きを食べ終え、ランドセルを背
負う公太と将。

駄菓子屋の店内に向かって、
将「ほな、おばちゃん、おおきに！」
公太「ごっそーさん」

店から顔を出す田村キヨ子（70）。

キヨ子「気いつけて帰りやく、夕飯もちやんと食べなあかんで」

軽く手を挙げて去っていく公太と将。

○秋元家・ダイニング（夜）

テーブルの上に置かれたたこ焼き機を

囲んでいる秋元誠（42）、秋元恵子

（41）、公太。

ビールを飲んでいる秋元、たこ焼きを

ひっくり返している恵子、不服そうに

たこ焼きを見つめている公太。

公太「何で今日、たこ焼きなん？」

恵子「あんた、たこ焼き好きじゃなかった？」

公太「好きやけど、たこ焼き食べて来てん」

秋元「好きなもん2回も食べれて、ええなあ」

公太「ちやうやん、どうせなら別の日に分け

て食べたいやん」

恵子「そーゆー事やったら心配無いで、お母

ちゃんが食べたるしな」

公太「何でやねん！ そんな言われたらめ
っちゃ食べるわ」

恵子「何か今日、調子ええな」

たこ焼きを食べ始める秋元と公太。

秋元・公太「あつつつ」

ハフハフしている秋元と公太を見て、

恵子「その顔そっくりやで、アホ面」

秋元「せや！ 大事な事思い出した」

恵子「何？ うちの誕生日ならまだ先やで」

公太「僕のもまだやで」

秋元「今日会社でな、転勤せえ言われてん」

目を見開いて手を止める恵子。

恵子「え、嘘やん！ どこに？」

秋元の口の動きがサイレントになる。

思わずたこ焼きを落とす公太。

悔しそうな顔でガタンと席を立ち去っ

ていく公太。

○同・公太の部屋・中（夜）

電気のついていない薄暗い部屋。

お笑いの本が並ぶ本棚。

ベッドの上につつ伏している公太。

喘息の症状が出て苦しそうに咳込む。

慌ててランドセルから吸引器を取り出

し吸い始める公太。

中には『ネタ帳』と書かれた大学ノートが入っている。

○駄菓子屋「たなべ」・外（夕）

店前のベンチに座り駄菓子を食べている将と公太。

菓子に手を付けず俯いている公太。

将「じぶん、今日めっちゃ元気ないやん」

公太「・・・」

将「一応聞いたるわ、どないしてん？」

公太「あんな・・・」

将「そらつらいなあ」

公太「まだ言うてへんわ！」

将「もったいぶな！」

公太「・・・家族で、東京いく事なってん」

将「ええやん、いついくん？」

公太「再来週」

将「東京怖いからなく、気いつけなあかんで」

公太「・・・」

将「関西人見つけたら『なにかおもしろい事
言つて！』とか言うてくるらしいで」

公太「行きたないわ、東京・・・」

俯いて口をへの字に曲げている公太。

将「つなんやねん、じぶん、太陽の塔みたい
な顔なつてんで」

公太「どんな顔やねん！」

太陽の塔の顔真似をする将。

思わずブツと噴き出す公太。

公太「ぶっさいくやなく」

将「これ、じぶんやで！」

再び太陽の塔の顔真似をする将。

○道（夕）

ランドセルを背負い、線路脇の道を歩
いている公太と将。

錆びたフェンスを枝でなぞりながら歩

いている将。

将「ええやん、東京、お土産に東京バナナ
買ってきてや」

公太「・・・なんやねん、それ」

将「前な、ケチな父ちゃんが買ってきてくれ
てん」

公太「ケチなん？」

将「うまかったわくあれは大阪には無い味や
な」

公太「東京な（電車の音でかき消され）転校
すんねん」

将「何？ 何か言うた？」

将の目を見つめている公太。

公太「・・・べつに」

将「何やねん」

突然走り出す公太。

○大野家・外観（夕）

自宅の併設された古い小さな工場。

看板に『大野鉄工所』の文字。

油で汚れた作業着姿の大野譲二（43）

が仕事をしている。

中を覗きこむ将と公太。

将「あれがケチな父ちゃんな」

公太「ケチ言うな」

将「汚いしケチやけど、かっこええねん」

将と公太に気づく大野。

大野「おい、将、遊んでんと手伝え」

将「じゃあな、太陽マン」

公太「何回言うねん！」

小さく手を振って別れる公太と将。

○秋元家・ダイニング（夜）

お好み焼きを囲んでいる秋元、恵子、

公太。

箸の進んでいない公太。

恵子「そろそろ引越しの準備せななく」

公太「いつまで？ いつまで東京なん？」

秋元「それが分からんところがサラリーマンの
辛いところやな」

悔しそうに下を向く公太。

恵子「あんたお好み焼き食べへんの？ お母
ちゃんが食べたるか？」

公太「ええよ・・・」

心配そうに顔を見合わせる恵子と秋元。

○西原小学校・教室・中（夕）

窓から校庭を眺めている公太。

校庭では将が仲間たちと楽しそうにサ
ッカーをしている。

ドアを開け入ってくる恵子。

恵子「終わったで、転校の手続き」

小さく頷き教室を出ていく公太。

○同・校庭（夕）

校庭の脇を並んで歩く恵子と公太。

公太に気づき駆け寄ってくる将。

将「おばさんこんにちは！ え、じぶん何か

悪い事したん？」

恵子「おばさんちゃうわ、お姉さんや！ て

いうか、あんたまだ」

公太「（慌てて）たなべ、たなべ行こうや」

将「お、おう」

恵子「（察して）ほな、先帰ってるわ」

不思議そうな顔をする将。

○駄菓子屋「たなべ」・外（夕）

店前のベンチに座り駄菓子を食べ
てい
る公太と将。

公太「なあ、コンビ組むって話」

将「あたり前田のクラッカー！」

公太「なんやねんそれ」

将「ようじいちゃんが言うとってん」

公太「あれ、本気なん？」

将「あたり前田のクラッカー！」

公太「中高年ギャグか！」

将「本気やで」

公太「それな、」

将「せや、腕試しに出よ思ててん、これ」

ランドセルの中から『小学生お笑い選

手権開催』と書かれた紙を取り出す将。

公太「ごめん・・・無理なつた」

将「何？　なんか用事でもあんの？」

公太「転校すんねん、東京」

持っていた駄菓子を落とす将。

将「全然おもんないで、そのボケ」

公太「ボケ、ちやうねん・・・（無理にテン

ション高く）でも将やったら、誰とでもコ

ンビ組める思うで」

将「ちよ、待てや！」

公太「人気者やん、じぶん」

将「それ、本気で言うてんの？」

公太「ほらサッカーの友達とかもようけおる

し、別に僕とじゃなくても」

持っていたチラシをぐしゃつと握りし

める将。

将「そんな風に思ってたん？」

悔しそうな顔で公太を見つめる将。

将から目を逸らす公太。

将「もうええわ・・・」

ランドセルを背負って去っていく将。

将の背中を見つめる公太。

公太の足元にクシヤクシヤのチラシが

転がっている。

店の中からキヨ子が顔を出す。

キヨ子「どないしたん？ 喧嘩か？」

公太「嘘、ついてもうた」

足元のチラシを拾い上げるキヨ子。

○道（夕）

ランドセルを背負い、線路脇の道を一

人で歩いている公太。

喘息の咳が出て苦しむ公太。

急いでポケットから吸引器を取り出し

吸い始める公太。

○大野家・玄関・外

恵子と公太が大野広美（41）に菓子折りを渡し挨拶をしている。

恵子「将くんには仲良うしてもらて」

広美「なんや急やな」

汚れた作業着姿の大野が鉄工所から顔を出す。

大野「ああ、わざわざすみません」

広美「お父ちゃん、将どこいったん？」

大野「あれ？ さっきまでおったで」

広美「（大声で）将！ 公太くん挨拶に来てくれてんで！ 何してんの！」

将を探しに行く大野。

気まずそうに俯いている公太。

○秋元家・公太の部屋（夕）

段ボールの積まれた薄暗い部屋。

『ネタ帳』と書かれたノートを段ボールに詰め、ガムテープで止める公太。
窓の外の夕日を見つめる公太。

○駄菓子屋「たなべ」・外（夕）

店前のベンチに座り、浮かない顔でペ

ットボトルのジュースを飲んでいる将。

店の中から顔を出すキヨ子。

キヨ子「なあ、喧嘩したんやろ？」

嫌そうな顔でキヨ子を見る将。

将「下世話やねん」

キヨ子「あんたら二人おもしろかったのになあ」

将「・・・」

キヨ子「嘘ついてもうた言うてたで」

将「嘘？」

空のペットボトルを見つめ考える将。

立ち上がり、そのまま走り去る将。

○太陽の塔（夕）

太陽の塔の前を蓋のないペットボトル

を持って走っていく将。

○駄菓子屋「たなべ」・外（夕）

誰もいないベンチを見つめ通り過ぎる
公太。

○道頓堀（夕）

大きなグリコの看板。

蓋のない空のペットボトルを持った将
が走ってくる。

看板の前で立ち止まり、ふと看板を見
上げる将。

おもむろに看板と同じポーズをする将。

○公園（夜）

一人ブランコに座っている公太。

○新世界（夜）

ビリケンの前を通り過ぎ、通天閣へ向
かって走っていく将。

手には蓋のない空のペットボトル。

○公園（夜）

小さく揺れている無人のブランコの後
ろを汗だくで走り過ぎていく将。

○秋元家・玄関・外（朝）

引越したトラックを見送る秋元と恵子。

○新大阪駅・改札口

荷物を抱え改札を通過していく秋元、恵
子、公太。

○同・構内

蓋のついた空のペットボトルを持った
将が人をかき分け走っている。

ガラの悪そうなおじさんにぶつかる将。
倒れてしりもちをつく将。

おじさん「どこ見とんじゃ！ クソガキ」

転がった空のペットボトルを蹴り上げ
るおじさん。

将「やめろ！」

急いでペットボトルを取りに行く将。

○同・改札口

改札を通り中に入っていく秋元、恵子、
公太。

将の声「（大声で）待てや、太陽マン！」

将の声に振り向く公太。

ペットボトルを持った将が立っている。

公太「（振り向き小声で）なんで」

将「受け取れ！」

空のペットボトルを改札越しに公太へ

向かって投げる将。

ペットボトルをキャッチする公太。

公太「（ペットボトルを見て）・・・」

将「あとな、東京で『なんかおもしろい事言う
て！』言われたらこのギャグやりや！」

笑顔で左足と両手を挙げてグリコポー
ズをする将。

将「（大声で）ビクトリー！」

あっけにとられている公太。

通行人が怪訝な顔で将を見ている。

将「（大声で）ビクトリー！」

ブツと笑い出す公太。

公太「（小声で）なんやねんそれ」

将「このな、歯を見せるんがポイントやで！」

公太「滑る気しかせえへんわ」

将「うっさい、早よ行け！」

公太「このゴミなんなん？」

空のペットボトルを見せる公太。

将「ゴミちやうわ！ 大阪が入っとなねん！

大阪の匂いが詰まっとなねん！ 恋しなっ

たら開けて嗅いどけ」

公太「（こみ上げつつも）なんか、変な顔に
なりそうやん」

将「元からやん」

公太「うっさいわ！」

広美「そろそろ行くで」

秋元「あと5分や」

将「はよ行け！」

公太「（小声で）・・・ほんまは」

将「え、なに？」

公太「（大声で）めっちゃおもろかったわ！」

将に背を向けて歩き出す公太。

将「（大声で）またな！」

将の声を背中で聞き、振り切るように

走り出す公太。

公太の後ろ姿を見つめる将。

○新幹線・中（夕）

窓側で景色を見ている公太。

膝の上には空のペットボトル。

遠くに富士山が見える。

○東京駅・構内（夜）

多くの旅行者やサラリーマンが行き交う駅構内。

荷物を抱えた秋元、恵子、公太がウロ

ウロと歩いている。

キヨスクに『東京バナナ』と書かれ

たお菓子を見つけ立ち止まる公太。

公太「なあ・・・」

話しかけた先に秋元と恵子の姿は無い。

公太「あれ？ おかん？ おとん？」

焦って辺りを探す公太。

咳が出て苦しそうに立ち止まる公太。

公太を避けながら通り過ぎる人々。

○同・駅員室・中（夜）

怒った顔で椅子に座っている公太。

慌てた様子で入ってくる恵子と秋元。

恵子「公太！」

秋元「良かった！」

公太「大っ嫌いや、東京」

秋元「怒るなって」

公太「帰ろうや、大阪」

申し訳なさそうな顔で公太の頭をポン

ポンする秋元。

公太の目から大粒の涙が溢れ出す。

○東川小学校・校門（朝）

『東川小学校』と書かれた校門前。

ランドセルを背負った公太が恵子に付き添われ校門へ入っていく。

○同・教室・中

生徒達でザワついている教室。

藤崎章一（36）に付き添われ、緊張

した面持ちの公太が入ってくる。

各々の机に座る生徒達。

藤崎「今日からこの学校に転校してきた秋元

公太くんだ」

公太「よろしく、おねがいます」

藤崎「秋元は大阪から来たんだよな？」

公太「は、はい」

机から身を乗り出し興味津々の皆川淳

（11）と佐伯智也（11）。

淳「大阪？ 関西喋って〜」

智也「何か面白い事やって〜」

俯きギョツと拳を握りしめている公太。

意を決したように、左足と両手を挙げ

引きつった笑顔を作り、

公太「（小声で）ビ、ビクトリー」

一瞬静まり返る教室。

サツと手と足を戻し顔を真っ赤にして俯いている公太。

ヒソヒソとザワついている教室。

藤崎「お、面白いな、秋元」

慌てて笑顔で拍手をする藤崎。

パラパラと教室内から拍手があがる。

○道（夕）

一人で下校している公太。

楽しそうに喋っている2人組の男子小

学生とすれ違う。

振り返り、後ろ姿を見つめる公太。

○秋元家・ダイニング・中（夜）

未開封の段ボールが置いてある。

テーブルでミートソースパスタを食べ

ている秋元、恵子、公太。

秋元「どうだ？ 新しい学校」

公太「まあ、普通」

恵子「ぼちぼちパート探そかな」

公太「ご馳走様」

お皿を下げ去っていく公太。

○東川小学校・教室・中（夕）

バラバラと教室を出ていく生徒達。

窓際の席で外を眺めている公太。

校庭では数人の生徒がサッカーをしている。
いる。

○秋元家・ダイニング・中（夕）

段ボールの片付けられた暗い部屋。

ドアを開け入ってくる公太。

公太「（小声で）ただいま」

机の上にはラップのかけられたオムライ
スが置いてある。

○同・公太の部屋・中（夜）

いくつか未開封の段ボールが積まれた
暗い部屋。

ベッドでうつ伏せになっている公太。
喘息の咳が出て苦しみ始める公太。

○太陽の塔（夜）

暗闇にそびえる太陽の塔。

○大野家・鉄工所（夜）

看板に『大野鉄工所』の文字。

汚れた作業着姿で汗を流しながら重い
鉄骨を運んでいる将。

酒瓶を持ちながら酔っ払った様子の大
野が入ってくる。

大野「ええな、子供は、アホみたいにわろて
たらええし」

将「酒ばっか飲んでんちゃうぞ」

大野「じゃかましわ！」

大野に殴られる将。

○東川小学校・教室・中

帰りのホームルームが行われている。

藤崎「明日から夏休み、宿題忘れるなよ」

生徒達「はい」

チャイムが鳴り教室を出ていく生徒達。

× × ×

放課後、一人教室で『ネタ帳』を書いている公太。

淳と智也がドアから入ってくる。

淳「あれ、秋元、何書いてんの？」

智也「まさか、もう宿題？」

さっと腕でノートを隠す公太。

公太「（小声で）別に」

智也「抜け駆けか？」

公太「ちやうし」

公太の腕の下からノートを引っ張り出す淳。

淳「うわ、ネタ帳だって！ お笑い芸人目指してんの？」

智也グリコポーズをして、

智也「ビクトリー！ だっけ？」

公太「（真っ赤な顔をして）・・・」

淳「え！ 凶星！」

智也「見て、このコント！」

公太「（小声で）漫才やし」

クスクス笑いながらノートを見ている

淳と智也。

公太「もうええやろ」

ノートを取り返そうとする公太。

淳「ええやんか、ええやんか」

公太「返せって」

無理やりノートを引っ張り破ってしま

う公太。

智也「え、なんかごめん」

淳「俺らのせいじゃ、ないよな」

ノートを放り出し去っていく淳と智也。

破れたノートを床から拾い上げようと

する公太。

喘息の咳が出て苦しみ始める公太。

○秋元家・公太の部屋・中（夜）

段ボールの積まれた暗い部屋。

ベッドに寝ころび空のペットボトルを見つめている公太。

キャップを開けそつと匂いを嗅ぐ公太。
ペットボトルを離し眉をしかめる公太。
再び嗅ぐが、思い切り咽てキャップを下に落としてしまう公太。

公太「なんやねん、この匂い」

落ちたキャップを拾う公太。

よく見るとキャップの裏に小さな文字で『100日後！』と書かれている。

公太「ん？」

フリーズして考える公太。

机の上の卓上カレンダーをめくり日付を数えている公太。

窓の外からけたたましく自転車のベルの音がしている。

公太「（100日後が今日であることに気づき）え？ 何？」

恐る恐る窓を開けのぞき込む公太。

窓の外には自転車に乗った将がニヤニヤしながら公太の方を見ている。

将「（大声で）脚力っておもろいやろ！」

急いで窓を閉める公太。

驚いて固まっている公太。

公太「アホや、アホすぎる」

将の声「おい、閉めんなや！ 大阪から来てんぞ！」

将の声を聞いて笑い出す公太。

お腹を抱えながら部屋を出ていく公太。

○公園（夜）

ブランコに乗りながらたこ焼きを食べ
ている将と公太。

将「なんやこのたこ焼き、堅いな」

公太「ほんまに大阪から来たん？」

将「なめんなよ、脚力」

公太「ちよつと色々追いつかへん」

将「千葉で法事あってな、そこでママチャリ

借りてん」

公太「（ちよっと考えて）でも凄いわ！」

将「せやけどめっちゃ迷って、もう大阪帰る

かな思たら着いたわ」

公太「開けたで、あれ」

将「どうやった？ ええ匂いした？」

公太「する思う？ こんな顔なつたで」

太陽の塔と同じ顔をする公太。

将「出たな！ 太陽マン！」

笑い合う将と公太。

○秋元家・公太の部屋・中（夜）

パジャマ姿の将と公太。

ベッドの脇に布団が敷いてある。

リュックの中からチラシを取り出す将。

将「迷ってる途中にな、こんな見つけてん」

『小学生お笑い大会 飛び入り参加歓迎』

と書かれたチラシ。

公太「（チラシを見ながら）え、明日？」

将「出ようや！」

公太「いつも急すぎんねん」

将「ほな、ネタ合わせしよか」

公太「耳どこいったん？」

将「今夜は、寝かさへんで」

ランドセルから破れた箇所をテープで

止めたネタ帳を取り出す公太。

○電車・中

座って窓の外を見ている将と公太。

将「東京っておもしろい奴おんの？」

公太「・・・おらんやろ」

将「こんなぎょうさん人おんのに？」

公太「外国やしな」

将「アメリカンジョークでなんとかせえや」

公太「なんでアメリカやねん」

将「優勝すんで」

遠くにスカイツリーが見える。

○花やしき・ステージ

『小学生お笑い大会』と書かれたステージで小学生がマイクの前に立ち漫才をしている。

審査員席には吉井大輔（32）と数名のお笑い芸人が座っている。

○同・ステージ裏

緊張した面持ちの公太と将が待機している。

将「ええか、とにかく声張れ！」

無言で小刻みに頷いている公太。

将「すでに声出てへんやん！」

無言で親指を立てせグッドのポーズをしている公太。

○同・ステージ

中央にマイクが一本立っている。

ステージに手を叩きながら小走りですべてくる将と公太。

将「はいどうも」

公太「どうも〜」

将「飛び入り参加の喘息脚力言います〜」

公太「僕がか弱い喘息で、こっちは筋肉バカの脚力です〜」

将「バカは余計や！ 見てこの筋肉！」

ふくらはぎを客に見せつける将。

公太「引いてるがな！」

将「僕ね、チャリで大阪から来たんですよ」

公太「嘘ですよ」

将「こいつが粋がって東京住みだしてね」

公太「粋ってへん、転勤や」

将「毎晩ね『（やさきたかじん風に）やっぱ

好つきやねん〜やっぱ好つきやねん〜大阪』

言うて泣いて電話かけてきよるですわ」

公太「見て、わろてるの中高年だけやで」

将「せやから遠路はるばる来ましてね、いつ

もより3割増しでパンパンですわ」

ふくらはぎを客に見せつける将。

公太「知らんがな」

将「ええ子持ちシシヤモでしょ、食べます？」

観客に喋りかけている将。

遠くから淳と智也がステージ上の公太を見てニヤニヤしている。

淳と智也に気づき俯く公太。

公太の様子に気づきネタを変える将。

将「そういえばこいつにね、引越しの時ギヤグ持たせたんですよ、とびっきりのおもしろいやつ」

公太「（小声で）は？」

将「あれ、めっちゃウケたんちやう？」

公太「（小声で）ウケてへんし」

将「そらやり方があかんかってん、ちよつとここでやってみ？」

突然のアドリブに困惑する公太。

淳「え、ビクトリー？」

智也「まさかまたやんの？」

将「なに？ もう東京で流行ってんの？」

公太「（小声で）ちやうし」

将「ええから、やってみって」

恐る恐る片足と両手を挙げて、

公太「（小声で）ビ、ビクトリー」

静まり返る会場。

淳「うわー」

智也「滑った」

会場の冷めた様子を見て喘息の症状が

出始める公太。

苦しそうにポケットから吸引器を取り

出し、客に背を向けて吸い始める公太。

騒然とする会場。

将「でた！ 得意の喘息ギャグ！ これズル

いんすわ」

会場からクスクスと笑いが起こる。

客席の方に振り返る公太。

公太「（大声で）ギャグちゃうわ！」

将「なんなん！ それ吸ったらめっちゃ声デ

カなるやん！」

公太「変な葉ちがいませ！」

将「はい」

公太・将「（グリコポーズで）ビクトリー！」

会場から笑いと拍手が上がっている。

遠くで笑って拍手をしている智也と淳。

○同・園内

ベンチに座っている公太と将。

数枚の図書カードを見つめている将。

将「図書カードかぁ」

公太「審査員賞やしな」

将「本読まへんねんな」

二人の前を通る審査員の吉井。

吉井「あ、さっきの、喘息脚力？」

将「はい！」

公太「あ、審査員の」

吉井「キミらおもしろかったで〜（グリコポーズをして）ビクトリー！」

将「うわ！　うれし」

吉井「これからその劇場で漫才やんねんけど、見に来る？」

将「ほんまですか！」

吉井「裏から入れたるわ」

将「うっしや〜！」

喜んでゐる将。

微妙な面持ちの公太。

公太「いや、払わせてください！」

将「何言うてんねん！ カネ無いやん！」

公太「これ、使えませんか？」

吉井に図書カードを差し出す公太。

吉井「カッコええな、ほな、それ換金したる

わ

公太「ありがとうございます！」

頭を下げる公太。

公太を見つめる将。

吉井「本読まへんけどな」

将「読まへんのかい！」

財布からお札を取り出し図書カードと

交換する吉井。

○浅草漫才会館・中

大勢の観客でにぎわう劇場内。

ステージ上でライトに照らされながら

漫才をしている吉井。

笑いと拍手に包まれる劇場内。
客席後方から食い入るように吉井を見
つめている公太と将。

○同・外（夕）

高揚しながら出てくる将と公太。

将「最っ高やったな！」

公太「腹筋崩壊する思たわ」

将「芸人てめっちやめちやかっこええな」

公太「ええな、やっぱお笑い、ええわ」

将「俺はお笑い界のゴジラになる！」

公太「まずは小学生大会優勝やな」

興奮した様子で公太の肩を組む将。

○秋元家・玄関・外

自転車にまたがる将と見送る公太。

将「また合宿しようや」

公太「次はちゃんと連絡してな」

右手をあげて去っていく将。

将の背中を見つめる公太。

自転車を止め振り返る将。

将「俺、好きやで東京！ 公太の住んどる街
やしな」

公太「・・・なんやねん」

将「また来るわ」

自転車を漕いで去っていく将。

将の後ろ姿を見送る公太。

公太「よっしゃ、ネタ書こ」

腕まくりをして玄関に入っていく公太。

驚いて公太を見つめる淳と智也。

○車内（夕）

車の中から遠ざかるスカイツリーを見
つめている将。

○東川小学校・教室・中（朝）

窓側に座っている公太。

生徒たちが次々と入ってくる。

公太の席に近づいてくる智也と淳。

智也「なあ、こないだの漫才」

顔をこわばらせ智也を見る公太。

公太「何？」

智也「すごかったな、審査員賞」

公太「ほんま？」

淳「あの相方も面白かったわ」

顔が一瞬にして明るくなる公太。

○大野家・鉄工所・中（夕）

汚れた作業着で掃除をしている将。

2つのペットボトルを持って入ってくる大野。

大野「休憩しよか」

大野の投げたペットボトルを受け取る将。

× × ×

鉄骨の上に座って休憩する将と大野。

将「ほんでな、東京の人の腹筋崩壊させたつてん」

大野「そうか、お前はビッグになれ、好きな事して稼げ」

将「ビッグになって、楽しせたるわ！」

悲し気な目で将を見つめている大野。

○本屋（夕）

熱心に漫才の本を立ち読みしている公太。

○大野家・玄関・外（朝）

スーツを着たガラの悪い借金取り2人組に必死で頭を下げている大野と広美。ランドセルを背負い、逃げる様に家を出ていく将。

○秋元家・公太の部屋・中（朝）

小学生お笑い大会審査員賞の写真が飾られた明るい部屋。
部屋の段ボールは無くなり、綺麗に片付けられている。
固定電話が鳴っているが誰も出ない。

○東川小学校・校門（朝）

ランドセルを背負い登校する公太。

後ろから公太に近づく淳と智也。

淳「おっす秋元！」

公太「おう、おはようさん」

智也「昨日の漫才見た？」

公太「見たで」

智也と淳と楽しそうに並んで歩く公太。

○太陽の塔（夕）

顔に殴られた跡のある将が塔の前に座り、太陽の塔を見上げている。

○秋元家・ダイニング（夜）

テーブルにたこ焼き機が置かれ、たこ

焼きを食べている秋元、恵子、公太。

恵子「将くん、次はいつくるんかな？」

公太「そーいや連絡ないな」

秋元「またやんのか、強化合宿」

公太「大事やからな、筋トレは」

秋元家の固定電話が鳴り席を立つ恵子。

恵子「噂をすればちやう？」

戻ってきて子機を公太に渡す恵子。

公太「だべってくるわ」

子機を持って自室へ向かう公太。

○同・公太の部屋・中（夜）

ベッドの上に腰掛け卓上カレンダーを

片手に電話している公太。

公太「合宿の事やろ？ いつにする？」

将の声「・・・いかれへん」

公太「何？ 用事あんの？」

将の声「もう、いかへん」

公太「どないしてん？」

将の声「・・・おもんないねん、じぶん」

公太「は？」

将の声「舞台上で喘息とか、あんなんされた

らめっちゃ引くわ」

公太「・・・それは、ごめん」

将の声「ほんでじぶん暗いねん、やっぱ俺と

は合わへん」

公太「何言うてんの？」

電話口の奥でガラスの割れる音がする。

将の声「（早口で）やしコンビ解散、おしま

い、そっちで新しい相方探せ」

公太「ちよ、待てって！」

ガチャンと切れる電話。

公太「なんでやねん！」

思い切り壁を殴る公太。

壁の小学生お笑い大会の写真がガタンと床に落ちる。

○商店街（夜）

シャッターの閉まりかけた商店街を一人で歩いている公太。

八百屋の前にはバナナやりんごなどフルーツが売られている。

○繁華街（夜）

思いつめた様子で歩いている公太。

仲間と居酒屋から出てくる吉井。

吉井とぶつかりそうになる公太。

吉井「おっと！ あれ？ 喘息？ やんな」

泣きそうな顔で吉井を見る公太。

○公園（夜）

自転車を止めベンチに座っている公太。

コーヒーを買ってきて公太に渡す吉井。

公太「どうも」

吉井「なんか、盗んだバイクで走り出しそう

な顔しとんな」

公太「・・・どんな顔ですか」

吉井「親と喧嘩でもしたん？」

公太「お笑いって、なんなんですか？」

吉井「おお、どうしたん？ 急にソクラテス

みたいな事いうやん」

公太「なんか、分からん・・・」

吉井「せやなあ、例えば喘息にとつての幸せ

ってなに？」

公太「・・・」

吉井「わからんよな、急に言われても。じゃあ、明日死ぬ言われたら、何がしたい？」

公太「（少し考えて絞り出すように）将と・・・脚力と漫才がしたいです」

吉井「泣くわ！俺でも言えへんそんな事」
コーヒーを飲み干す吉井。

吉井「皮肉やけどな、明日死ぬ思ったら、このゴミ漁ってるカラスも、このきつたない街の空気も、車の煩いクラクションも、この空き缶ですら急に愛おしく思えへん？」

公太「（空き缶を見ながら）・・・」

吉井「その愛しい中に、ほんのちよつとだけアホなことがあったら、何か楽しくない？」
明るみ始める空。

伸びをして立ち上がる吉井。

振りかぶってゴミ箱に空き缶を投げる

吉井。

吉井「きつとな、それだけの事やねん」
空き缶が弧を描いてゴミ箱に入る。

吉井「よっしゃ、家帰って寝よ」

去っていかうとする吉井。

公太「あの！ 大阪ってどっちですか？」

立ち止まり、朝日を見ながら右を指差

す吉井。

吉井「多分、あっちゃやな」

吉井の指先を見つめる公太。

○秋元家・玄関・中（朝）

玄関に入ってくる公太。

公太「ただいま」

子機を持ち、青ざめた顔をした恵子が

バタバタと出てくる。

恵子「あんた、どこ行ってたん？」

公太「どうしたん？ 顔引きつってんで」

恵子「ちゃんと聞いてな、将くんのお父さん、

死んだんやて」

絶句する公太。

公太「・・・嘘や」

恵子「借金で首回らんくなって、自殺したて」

慌てて家を飛び出していく公太。

○同・玄関前（朝）

自転車に乗ろうとしている公太。

慌てて玄関から出てくる恵子。

恵子「あんた、どこいくん？」

公太「大阪行ってくる」

恵子「何言うてんの！」

公太「行かな」

恵子「アカン！死ぬで！」

恵子を無視して出ていこうとする公太。

公太の腕を掴み止めようとする恵子。

恵子「ほな新幹線乗って一緒にいこ！」

公太「いらん！死んでもええ」

公太の頬を思い切りひっぱたく恵子。

公太「これで行かな、おもんないねん！」

恵子の制止を振り切り去っていく公太。

恵子「待ちや！公太！」

公太を走って追いかける恵子。

○道

全速力で自転車を漕いでいる公太。

猫が飛び出してきて思いつきりこける。

公太「いってえ、クソッ、クソッ」

膝が擦り剥けて血が流れている。

足を引きずりながら自転車を持ち上げる公太。

○商店街

八百屋から小さなビニール袋を提げ出て来る公太。

自転車に乗り走り出す公太。

○国道1号線

大型トラックが走る国道。

左手には海が見える。

ハンドルに小さなビニール袋を提げ、

自転車を漕いでいる公太。

排気ガスで咽て苦しむ公太。

○コンビニ(夕)

自転車を停め雨宿りをしている公太。

喘息の咳が始まり苦しそうにしゃがみ込む。

心配そうに近づく佐藤時雄（50）。

佐藤「兄ちゃん、大丈夫け？」

吸引器を口に咥えて吸っている公太。

× × ×

佐藤「大阪に自転車であ、根性は認めるが、ちと無理あるんじゃないか？」

公太「・・・」

佐藤「ま、雨あがるまでだ、乗ってけ」

トラックを指さす佐藤。

○トラック・車内（夕）

運転している佐藤。

助手席に座り、タオルで頭や服を拭いている公太。

佐藤「大阪に何の用だ？」

公太「友達が、いて」

佐藤「よっぽど、なんだな」

公太「はい」

佐藤「友達はいいぞ、大事にしろよ」

公太「はい」

窓の外を眺めている公太。

高速道路へ入っていくトラック。

ウトウトとして眠ってしまう公太。

○京都駅（朝）

まだ交通量の少ない駅前。

佐藤のトラックが路肩に停まる。

○大型トラック・車内（朝）

助手席で眠っている公太。

運転席の佐藤が公太を揺する。

佐藤「おい、兄ちゃん！」

公太「あ、あれ？ 寝てもうた」

佐藤「ついたで」

公太「へ？」

驚いて窓の外を見る公太。

京都タワーが見える。

○道（朝）

荷台から自転車を降ろす佐藤。

下で自転車を受け取る公太。

佐藤「ほんとは名古屋の予定だったんだけどよ」

公太「こんな遠くまで、すみません」

佐藤「いいのよ、なんだか俺も若い頃思い出してさ、応援したくなっちゃってよ」

公太「あ、ありがとうございます！」

佐藤「元気だといいな、友達」

公太「・・・はい」

佐藤「川沿いにずっと行けば大阪着くから」

公太「あの、もし元気じゃなかったら」

佐藤「何も考えんと、会ったら分かる」

公太「そう、ですね」

佐藤「じゃ、頑張れよ！」

運転席に乗り込む佐藤。

トラックに頭を下げ見送る公太。

自転車に乗って走り出す公太。

○道

川沿いを自転車で立ち漕ぎしながら進んでいる公太。

× × ×

線路沿いの道を電車と競争するように自転車を漕いでいる公太。

○大野家・玄関・前

鉄工所の前に公太の自転車が停められている。

肩を落とした様子の公太が出てくる。

ガランとした薄暗い鉄工所の中を見つ

める公太。

○道

線路沿いの道。

自転車を押して歩いている公太。

○駄菓子屋「たなべ」・外

自転車を押しながら店の前のベンチを

見つめている公太。

店の中からキヨ子が出てくる。

キヨ子「仲直りしたん？」

公太「いつの話や」

キヨ子「太陽んどこちやうか？」

自転車にまたがり立ち漕ぎをして去っていく公太。

○太陽の塔（夕）

夕日に照らされた太陽の塔。

塔の前の芝生に一人で体育座りをして

俯いている将。

遠くから自転車に乗った公太が近づいてくる。

将の後ろに自転車を停める公太。

将の背中に向かってけたたましく自転

車のベルを鳴らす公太。

驚いて振り向き、公太を見る将。

公太「来たで！ 東京から」

将「（小声で）・・・アホか」

泣き顔になる将。

× × ×

塔の下で並んで座っている公太と将。

将「帰れや、東京」

公太「もう足ガクガクや」

将「おもんないねん、じぶん」

公太「知つとる」

将「何しに来てん？」

立ち上がり自転車のハンドルにかかっ

たビニール袋を持ってくる公太。

公太「欲しい言うてたやつや」

ビニール袋を将に渡す公太。

ビニール袋を受け取り中を見る将。

一房のバナナが入っている。

少しだけ口角をあげる将。

無言でバナナを食べはじめる将。

遠くを見つめている公太。

将「じぶん、どういいうつもり？」

公太「大阪にはない味やろ？」

公太のボケを無視する将。

将「ようここ来んねん、この顔見とつたらだ
んだん腹立ってきてな、ちよつと元気出ん
ねん」

バナナを食べ終えた将。

おもむろに立ち上がり、バナナの皮を
思いつきり地面に投げつける将。

将「これちやうわ！」

堰を切ったように大粒の涙を流す将。

公太「そんな、おもしろかったん？」

将の背中に手を当ててさする公太。

ビニール袋からは『フィリピン産』と
書かれたシールが貼られたバナナの房
が見えている。

○道（夕）

線路沿いの道。

自転車を押している公太と将。

将「もうじぶん、喘息ちやうやん」

公太「喘息ちがくても、相方や」

将「脚力脚力、言いくくしてしゃーないわ」

立ち止まり怒った顔で公太を見る将。

振り向き将を見る公太。

将「しよーもないボケに命かけんなや・・・」

公太「しよーもない言うな、他にかけれるも

ん無いねん」

将「（小声で）・・・アホか」

公太「たなべ行って、だべろうや」

ゆっくりと歩き出す将と公太。

○T・15年後

○浅草漫才会館・中

大勢の観客でにぎわう劇場内。

最前列には小学生3、4が座り、食い

入るようにステージを見つめている。

ステージ上にはライトに照らされた1

本のマイクと『全速脚力』と書かれた

小さな立て看板。

袖からお揃いの黄色いジャケットを着
た将（26）と公太（26）が勢いよ
く出てくる。

将・公太「はいどうも、全速脚力です」

会場から拍手が上がっている。

将「あれ美味しいね、食べた事あります？」

公太「ちよつと待って、何の話？」

将「東京バナナの話ですよ」

公太「なんやねん、バナナみたいな格好して」

将「この相方ね、俺が大阪おるとき東京バナ
ナ買うてきていうたら、東京に売ってる

ただのバナナ買うて来たんですよ」

公太「美味しいやんな？ 東京のバナナ」

将「ちやうやん、フィリピン産やったやん！」

公太「気づいてたん？」

将「あたり前田のクラッカー」

公太「見て、中高年しか笑うてへんで」

将「しかもね、東京からわざわざチャリで持

って来よつたんですわ、アホでしょ」

公太「おかげでめっちゃ脚力付いてん、見て」

ズボンをめくって足を見せる公太。

将「ほっそ！ 鶏ガラか！」

公太「こいつなんてね、僕が東京に引っ越すときに、空のペットボトル渡して来たんですよ、飲み終わったやつね。貧乏やとしてもひどくないですか？」

将「貧乏いうな」

公太「ほんでね、中に大阪の匂いが入ってるから寂しなったら嗅げって、結構男前な事いうて、でもこの顔ですよ」

将「ギャップ萌えや」

公太「ほんで嗅いだんですよ」

将「嗅いだんかい！」

公太「（顔を歪めて）こんな顔になりましたわ」

将「アホ！ それ太陽の塔やないか！」

公太「はい」

将・公太「（グリコポーズで）ビクトリー！」

笑顔でグリコポーズをする将と公太。

会場から笑いと拍手が上がっている。

○浅草漫才会館・外（夕）

笑いながら出てくる男子小学生3、4。

小学生3「おもしろかった」

小学生4「腹筋いたいわ」

小学生3「芸人ってかっこいいよな」

小学生4「あんな大人になりたいな」

小学生3「なあ、次は優勝すんで！」

興奮した様子で肩を組み、去っていく

小学生3、4。

《完》